

夢や目標に向かってがんばっている子どもたち



芦田恵之助作文コンクール入選

タイムカプセルを開けたときのよう嬉しなお知らせです。

2年前にこのコンクールは行われましたが、事務局の事情により表彰の伝達が遅れたそうです。しかし、がんばった成果が認められたことは、たとえ年月が過ぎていても喜ばしいことです。全校児童に受賞を伝え、みんな、称えることができました。

入選した作文の中から、特選となった大垣優希さん(現3年生)の作文を子どもたちの前で朗読しました。その時の記憶が蘇ったのか、子どもたちの間から「あー、あー、あった、あった」と、口にする子どももたくさんありました。体験したことや感動したことを思い出し、また、「自分もがんばろう」「やればできる」という気持ちと呼び起こす、遠阪小学校にとつてとてもいい機会となりました。入選者は次のとおりです。

特選

1年 大垣 優希 さん(現3年)

入選

3年 足立 美桜 さん(現5年)



▲賞状を手に入選を喜ぶ子どもたち

佳作

- 1年 阿部 快 さん(現3年)
- 1年 大槻 柊太 さん(現3年)
- 3年 足立 実冬 さん(現5年)
- 3年 山内 香穂 さん(現5年)
- 4年 塚原 紘大 さん(現6年)

次に、「特選の部」に選ばれた、大垣優希さんの作文を紹介します。審査委員長からは、「1年生とは思えない構成力」と、高い評価を受けています。

(※紙面の都合上、本人の了解を得て一部修正しています。)

「なわとびのこと」

遠阪小学校 1年 大がきゆうき

このまえとおぎかがっこうに、木うちゆうやさんというなわとびのせかいチャンピオンがきてでした。

ぜんこうせいで、なわとびのとびかたをおしえてもらいました。さいしよに、なわとびのこくさい大かいでゆうしようしたときの、とびかたを、おしえてもらいました。はじめは、ぜんぜんわかりませんでした。でも、ゆうやさんにおしえてもらったら、よくわかりました。

ゆうやさんを見て、「あきらめたらだめだな。」とおもいました。

なぜかという、ぼくは、八の字ができなくて、「したいけどできないからもうやりたくない。」とおもっていました。でも、なんかできそうなかんじがしてきました。

それで、つぎのたいいくのべんきょうのときに、みんなはとべるのに、ぼくは、とべなかつたので、たいいくかんのうしろで、先生とつくくんをしました。でも、なわがあたるといたくてこわいので、なかなかはいれなかつたです。

そのときに、ゆうやさんにおしえてもらったこととおもいました。ぼくは、おもいきってたかくとびました。

すると、なわをまわしたままでうまくとべました。「やったあ。」

「ゆうやさんがおしえてくれたとおりや。」とおもいました。

ぼくは、とてもうれしかったです。もつともつとれんしゆうして、みんなといっしよに八の字とびができるようになりたいです。あきらめないでれんしゆうしようとおもいました。

もう一人紹介したい子

7月15日(火)、水泳教室を実施しました。泳力をもう少し身につけたいと12人が参加しました。15メートル泳ぎたい、クロールで息つきができるようになりたい、平泳ぎで25メートル泳ぎたい。それぞれが、目標を持って参加しました。どの子も、自分が立てた目標に向かって一杯の努力をした結果、「やったー」「泳げたー」と、プールには歓喜の音が飛び交いました。

その中でも、今回は、5年生の足立健(あだち たける)さんを紹介したいと思います。彼は、クロールの息継ぎがあまり上手ではありませんでした。しかし、水泳教室の間、ほとんど休まず一生懸命に練習をしていました。そして、水泳教室終了間際、ついに25メートルを泳ぎ切ることができました。息を継ぐ顔も苦しそう、疲れて腕を上げることも難しくなっていました。決してあきらめず、泳ぎ切る強い気持ちで一心不乱にゴールをめざす姿には、思わず胸が熱くなりました。感動の瞬間でした。